

2023.8.15

No.74

発行：社会福祉法人かいゆう 国立市青柳 1-34-3 ☎042-595-8033 <http://www.kaiyu.or.jp/>



日中一時支援 宙
仲本秀太さんの作品

毎日あえること

先日福島原発廃炉工事の現地視察に行ってきました。3・11 から 12 年たって福島は「復興」が進んでいます。津波でさらわれた跡地は整地され新しい建物が建ち始めています。帰還困難区域も少しずつ解除になったりしてきます。しかしまだまだ街が復活したとは言いがたい風景です。人がいないからです。建物はお金をかければ造ることはできますが人のつながりでできていく街はお金だけではできません。すでに 10 年間他の地に避難しそこで生活してきた人たちがふるさととはいえ全く風景も変わり知り合いもない「ふるさと」に帰って暮らそうという気持ちにはそう簡単にはなれません。むしろ10年暮らしたらそこが生活拠点になって当然です。それに放射能の不安があれば簡単に帰るといふ決断もできません。原発周辺地域の自然豊かだった街が廃炉産業の街になってしまい、今住んでいる人たちはもといた住民よりも廃炉産業で働く全国から集まってきた労働者が圧倒的多数です。廃炉のために毎日働く人は 4500 人いるそうです。この視察は富岡町に住んでいた「人間なき復興」を著した市村高志さんのお誘いでいきました。12 年たった今の福島復興は、まさしく「人間

なき復興」になっていると実感します。この先どんなまちになっていくのか見届けたいと思っています。

私たちは毎日通う職場、毎日会う人、毎日買いに行けるお店があって当たり前だと思っていますが、毎日変わらずそこにあるということはすごいことなんだなあ、と思います。そこに住む人たちが必要とし、大切に思い、色んなドラマがあってそこにあり続けることができる。当たり前は当たり前ではない。くにたち市が「しょうがいしゃが当たり前に暮らすまち」を宣言して多くのしょうがいしゃが地域で暮らせるのはこれまでの積み重ねがあつてできていること。その街だからかいゆうも当たり前前に事業ができている。また逆に私たちの日々の仕事はその積み重ねをつくっています。毎日同じことを繰り返す仕事に飽きたり意味を感じられなくなったりすることもあるでしょう。しかしそれでも続けていくことがしょうがいしゃが安心して暮らせる街ができていく。それはともに暮らす私たちにも安心をもたらしてくれる街です。毎日「こんにちは」と挨拶できる人と場所があることを大切にしたいものです。(理事長 遠藤良子)

居宅介護等事業・訪問介護事業
短期入所

くじらハウス おにぎり

Tel 042-505-7034

Fax 042-505-7035

↓集めたスタンプ

地方の魅力にふれる

突然ですが、「道の駅」を利用されたことはありますか？

車がないと行けない。東京都には1カ所しかない。などの理由で利用されたことのある方は少ないのかもしれない。

そんな道の駅ですが訪れる楽しさにはまってしまい2年ほど前からスタンプラリーを始め、ようやく関東・道の駅(180駅)を制覇しました！相当な時間とガソリンを使ったと思いますが、初めての道を走って「未知の駅」に向かうワクワク感がそれを苦とは感じさせませんでした。

道の駅にはその地域の魅力が凝縮されています。地場野菜コーナーには地元の新鮮な野菜や果物が安価で並び、小物コーナーには地元の方や地域の福祉作業所で作った作品が並びます。そしてグルメコーナーでは地元食材を使ったおいしい食事ができるので思わず食べ過ぎることも。。。

今年も新しい道の駅ができたとニュースでやっていました。スタンプラリー2冊目、そろそろスタートしようかと考えている次第です。(山本)



放課後等デイサービス

くじらっこ

Tel/Fax 042-505-4661



猛暑を乗り切る

4月に歩人から、くじらっこ配属になりました。春から改めて頑張り、季節の変化とともにこどもたちと成長や発見の瞬間を過ごせればうれしいと思っています。と、そんな春はゆき、あつというまに夏……。私が1番苦手な猛暑。自分自身も新しい環境や時間の中で新しい挑戦や発見をしたいと思ってる矢先ですが、外に出ることもためらう夏がやってくると思うと気持ちが少し憂鬱になります。

そんな私を季節問わず外に連れ出してくれるもの、そのひとつがカレーです。家で作るトマトカレーも好きですが、お店で異なるスパイスや野菜・肉の食感は来店しないと味わえないものが多いのです。世のラーメン好きがラーメン巡りをするように、私にとっては家で作るカレーとお店で食べるカレーは違う楽しみがあるのです。昨年見つけた調布市内にある沖縄風のカレー屋、イチジクなどを入れていて今まで知らなかったカレーを発見できたりします。手作りのスパイスやナッツが散りばめられたカレー。これを食べて暑い夏も南国気分ですぐに乗り切りたいなと思います。(鶴丸)

誰もが集えるみんなの居場所(12:00~15:00 日祝休み)

日中一時支援事業(15:30~土日祝休み)

土曜は17:00まで

たまりば宙(そら) Tel/Fax 042-843-0443

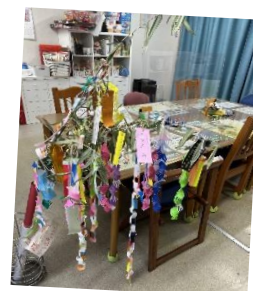
リニューアルその後…

たまりば宙リニューアルからそろそろ半年が近づいています。お客様の反響も良く、とても見やすくなったとのお声を頂いています。宙スタッフもとても動きやすく、以前よりも気持ちよくお仕事ができるようになりました。

日中一時の利用者さんも自分の居場所と楽しみをもって過ごされ、コロナ前に通われていた方

も又戻って来て下さっています。

地域の皆様やしょうがいのある無し関係無く、幅広く利用して頂けるようこれからも努力していきたいと思っています。珈琲も用意してありますので、是非、利用者さん共々お立ち寄り頂けますようお願い致します。(荒木)



最近のこと

5月21日(土)から28日(日)まで立川のアーティストックスタジオ LaLaLa で、作品展示販売がありました。駅から近く自然に囲まれた環境でした。週末を二回挟んだこともあり、ご家族で足を運んだスタッフも多かったようです。

私も親戚と拝見させていただき、(観覧?)講師の敦子先生からは丁寧な説明を聞かせていただきました。活動中に見に行った利用者さんが、他の方の作品をゆっくり眺める姿を見るはとても新鮮でした。ボランティアさんとヘルパーさんと交流もあったようです。

見てね!

くじら工房 Instagram



また、利用者さんのご家族とお会いし、座ってゆっくり話すこともできました。

このような機会をつくってくださったことにとっても感謝いたします。(三浦)

☆私のリラックス方法☆

radiko のタイムフリーで聞き逃したラジオを聞きながら土いじりすること。

☆私の休日の過ごし方☆

近くの図書館まで、用水路を眺めて遠回りしながら散歩することと姪孫の写真と動画の整理。

YMCA 夏まつりに参加しました♪

7月8日(土)今年も東京YMCA 医療福祉専門学校の夏祭りに、かいゆうも参加させていただきました。会場は学生の皆さんの出し物や企画で盛り上がり、活気に溢れていました。

かいゆうのブースは入口すぐの教室で、くじら工房の生製品の販売と、ゲームコーナーを用意していました。

生製品の売り上げは過去最高でした。学園の先生の中には、毎年くじら工房のふきんを楽しみにしてくださっている方も多く、リピート率の高さが嬉しかったです。

ゲームコーナーでは、ボーリングと輪投げを用意していました。こちらもくじら工房のメンバーが活動の中で作ったものです。こちらもとても大盛況でした!学生の皆さんが仲良しグループで来て盛り上がってる様子が印象的でした。



←かいゆうブース入口



くじらっこさん
も遊びに来て
くれました!

会場には、かいゆう関係の皆さんもたくさん遊びに来てくれました!くじらっこのお友だち、ガイヘルで来てくれた方、かいゆう職員…。学園祭のことを知って、「ボランティアするよ!」と手を上げて来てくれた方もいらっしゃいました。こうした地域のイベント会場で会うと、普段以上になんだか嬉しいですね。コロナ以来久々のお祭りの雰囲気は、やっぱりワクワクするものでした。

このようなステキな機会に呼んでくださったYMCAの皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、地域の中にあるかいゆうでありたいと改めて思います。(家村)



工房の作品



相談支援エブシロ

Tel 042-505-7021 Fax 042-505-7669



夏の教え

夏の初めに我が家のエアコンが故障した。すぐには気づかず、風が送られてくるだけだったのだけど、それでいいような気がしていた。でも寝るときに寝室のエアコンをつけ、「気持ちいい～、ホッとする～」と一週間ほどやっている内に、リビングではこの涼しさがなかったことにハッと気づいた。

故障とは思いたくなかったので、まずはトリセツを探し出し、脚立に乗ってフィルター等を外し、手順通りの掃除を一からやってみた。結果、ダストボックスに溜まりに溜まっていたホコリを発見し、水洗いもし、一日かけて完全に乾かしてから再セット。これで行けるかなと思ったのだけれど、ダメでした。そもそもベランダに出てみたら室外機が断続的に止まっていたし、エアコンも十数年前の製品。これは買い替えかと観念し、ちょうど日曜日だったので今頑張るしかないと気合を入れ直して、立川の家電量販店へ。

さて、そこからが問題の始まり。エアコン購入については3つぐらいの条件から即決し、店員さんが諸手続きをしている間に「アンケートをお願いします」と言われた。自宅のTVや電話やネット環境についてのアンケートだ。記入したら、店員さんが「エアコン購入と同時にネットなどのサービスを変更すると2万円の割引がありますよ。そういうことができるのが、家電量販店の良さなんです」と言う。前からネット環境等にちょっと不満があったけれど、手続きが面倒に感じて見送っていた。でもここならば色々まとめてやってくれそうなので、ではこの機会に変更しようかなと思いそう伝えると、別の店員さんが現れた。

その人から長々と繰り返しの多い説明を聞き、一緒にフロアを移動し、重要事項説明は一人でタブレット視聴。更に別の店員が話し始め、なんとそこで先程のスタッフの説明不足が判明した。工事が必要なんで一言も聞いていなかったのに工事日の日程調整が必要で、しかもA社からB社への乗り換えなのだけれど、A社には自分で連絡をして、後日に書類送付をしなければいけない。仕方なく帰宅後A社にWebで変更申込みをしたら、翌日TELがかかってきた。そして「B社に乗り換えると、実はもっと高くなるんですよ」と言われたのでカチンときてますます乗り換えたくなり、残そうと思っていたTVについても解約することに気持ちが固まる。翌々日再度その件でA社とTELで話すと、「もし自宅に〇〇の設備がないと追加費用がかかります」と言われる。なんだそれはと思ったけれど、B社に乗り換えることでよくなる点(ゴチャゴチャした配線が全部なくなる。いくつもの黒い箱が撤去できる。数年間まったく観ていなかったCSのお金を払わなくてよくなる)を心の中で確認し、「そのときは、そのときです」と答え、工事日の調整をした。あとで見てみたら、幸い我が家に〇〇の設備はあった。

この度の買い替え&乗り換え騒動で思ったこと。「わたしの希望や現状で困っていることを聞いてくれ、わたしにとってトータルで何がよさそうか提案してくれ、事前に確認する必要のあることは全部教えてくれ、手続きの仕方を教えてくれ、代わってやってもらえるところはやってくれる人が欲しい!」。それって、まるでよき相談支援専門員のような感じではないですか。つくづく、わたくしも「よき相談支援専門員」でありたいと思った、この夏のエアコンからの教えでした。(白川)

社会福祉法人かいゆうでは、社会保険労務士根来様を通してご紹介いただき、2023年度から新たに産業医「大前和幸先生」が選任されました。2ヶ月1回委員会に出席後、各部署を順番に職場巡視します。

わかりやすく説明して下さり話しやすい人柄が印象的です。

自己紹介は11月発行のかいゆうだよりをご覧ください。

安全衛生委員会より

6月12日(月)「からだづくり講習会」を行いました。健康運動実施者は「理学療法士大林先生」事前のアンケートから、少人数の女性参加者にあわせた内容となり、大変よかったですと感想をいただきました。身の回りで起きている事例から姿勢と動作をレクチャーしていただき、効果的なストレッチをアドバイスしてもらいました。次回は9月4日(月)を予定しています。(衛生管理者 三浦)

はじめの一步ハウス

こんにちは！はじめの一步ハウスでバイトし始めて2年ちょっと経ち、4月から正職員となりました遠藤紗羅です。

今年度から、新卒採用職員は『新任職員 OJT 研修』という取り組みを行っていく事になったそうです。1年目は4ヶ月ごとに3つの部署を回ります。

4月から7月は、元々長くバイトをしていた一步ハウスでした。バイトの業務+αでしたが覚える事も多く、全体を把握する力や責任を負う覚悟が必要だということが分かりました。

8月からは来歩ハウスに移動になり、完全に1からのスタートとなります。覚える事も今よりもっと多いかもしれませんが、利用者さんやスタッフさんとの関係作りから、頑張っていきたいと思えます！よろしくお祈りします！（遠藤）

はじめまして！

ミラハウス

はじめまして。この度、ミラハウスで働き始めました勅使川原梓です。

昨年、長年勤めた会社を退職し友人の紹介でかいゆうでお世話になることになりました。



ミラハウスでは夜勤もあり、最初は生活リズムが掴めませんでした。今では自分のペースでできるようになりました。障がいのある方と接することで、普段の人間関係についても見直す機会にもなり日々勉強させて頂いています。これからも気負わず楽しんで仕事をしていきたいです。（勅使川原）

来歩ハウス

3年目の夏

来歩ハウスのスタッフとして3年目に突入しました。この2年でグループホームでの一日の流れ、利用者さんの特徴、個性、過ごし方を把握しながら利用者さんと少しずつ信頼関係を築いている最中です。

コロナウィルスで外出制限もありましたが収ま

りつつある状況なのでグループホーム内の支援から外出、散歩、プールなどの身体を動かす支援に移行しても良いかと思っています。

個人的な話になりますが私自身、体重が右肩上がり

で現在、人生で一番重い状態…
これから、来歩ハウスに来て3回目の夏を迎えますが今年

は利用者さんの支援をしながら

体を絞ります、体を壊さない

程度で(笑) (津村)



とれいる

日常を積み重ねて

4月からとれいるで勤務しております、常勤アルバイトの下ノ原 歩です。

今まで、私にとって青柳の土地は行く機会の少ない、とても遠い場所の認識でした。

10年前にとれいるの開寮の際の事です。お祭りかな？みんなでヨーヨー売りとかわたあめとかを作った記憶が微かにあります。

ご縁があり、今は遠い場所の認識の土地に毎日通っています。

とれいるに向かいながら、今日はどんな日になるだろうか想像しています。入居者の方々は以前から存じ上げていたのですが、生活に入ると知らない顔を沢山見せてくれます。変化を感じます。笑ってふざけて、時に怒って。

日常を過ごしている中でも多くの発見があり、充実した日々を過ごしています。

何気ない日が1日ずつ積み上がって、みんなの表情が出来上がっているのだと改めて感じます。健康に気をつけながら、暑い夏を乗り越えて。毎日楽しく過ごしていきたいですね。（下ノ原）

わたくしごとですが、5月に引越しをしました。生まれてから20年と374ヶ月、住み慣れた地元立川を離れ母と弟が住む昭島へ。以前も書かせて頂きましたが、認知症の母の介護をしながら働かせて頂いており、これまでは立川の実家に時々帰りつつ、母の住む昭島でほぼ同居して介護をしていました。

ようやく母の状態と介護に慣れてきた4月某日。父の兄弟から急に告げられたのでした。

「(実家の)土地を処分するから出て行ってくれ」と。

敷地内には祖父母が居た家、私の実家、私の部屋だった離れと、3棟建っていたのですが、父が施設に入所してしまっただけからはその敷地に、私ひとりが住んでいました。詳細は省きますが、実家の土地に関してはいろいろと面倒臭い事になっていて、私は父が居なくなって“間借り”の立場でしたので逆らう事は出来ませんでした。

立ち退き期限は1ヶ月。。。まさに青天の霹靂。。。頭が真っ白になりました。。。

まずは姉弟で話し合い、姉は娘の家に居候、弟は母と住んでいますが個人事業主で毎日朝早くから夜遅くまで仕事、そして私は立川と昭島を行ったり来たりして母の介護。

もう面倒くせえ!! 皆で一緒に住んじゃおう!! と、なりました。

私自身は立川で生まれ育ったので立川を希望しましたが、母の事を考えると昭島から離れるのは得策ではないと思いました。母を担当して下さっているケアマネさんがとても良くして下さっていてコミュ障の母も懐いているし、お世話になっているヘルパーさん、デイサービスにも慣れて来ている。立川へ連れて来たらまた、いちから関係性を作らねばならないので、母にも私にも負担なので母の生活を最優先と考えて私が昭島へ行こうと決断しました。

仕事と介護の合間に物件探し、内見をしつつ、実家から運び出す物をまとめる日々。

実家の土地を処分する為に、建屋は取り壊して更地にしないといけないので、幸い必要なもの以外は産廃として処分して貰う事になっていました。ですので、普通の引越しに比べれば大した事はなかったのかもしれないませんが、なにぶん20年と374ヶ月の積みもった思い出と、趣味で集めたアレやコレやを取捨選択するにはあまりにも時間が短すぎました。。。

何とか物件を決め、鍵を受け取ったのは立ち退き期限の1週間前でした。

既に解体業者が同じ敷地に建っていた祖父母の家を解体している中、仕事の後に実家に寄って荷物を車に積み込んで運びましたが、祖父母の思い出が染み付いていた家が台所をむき出しにして跡形も無くなっているのは流石に“嗚呼、これで終わりなんだ。。。”と、何とも言い表せない気持ちになりました。

立ち退き期限前日の夜、最後の荷物の運び出しをして、終わりに実家の建屋と私の居た離れに手を合わせると涙が止まらなくなりました。大げさかもしれませんが、“これで私の20年と374ヶ月の人生が終わった”と感じました。

家族の思い出、友人たちのたまり場だった部屋、祖父母に可愛がられた思い出。。。それら全て、今は更地になったそうです。

引っ越してから一度も実家の前には行っていません。

思い出は思い出のまま心に留めていたいです。。。

私の心は立川っこのまま。。。

最後の荷物を新しく借りた家へ泣き腫らした真っ赤な目で運び込むと、母と弟の言い争う声。同窓会があるから出かけてくるモードに入って、真冬のコートを着込んだ母を弟が呆れながら止めていました。5月某日、時刻は深夜1時過ぎ、外は雨。。。思い出に浸る暇もくれないってことか、母よ。。。 (坂口)

サービス休止のお知らせ

10月22日(日)職員全体研修のためお休みします。

ご迷惑をおかけいたします。





家は借家なのですが琵琶の木が2本あります。入居したての頃はお隣に住んでいる方が庭の手入れをしてくださっており、まかせっきりにしていました。かれこれ8年前です。そのころは実は全く成らず、この木は実がつかないと思っていました。お隣が転居され、庭が荒れ放題になり、大家さんが来て、木を全部切ってしまうかと提案されました。夫婦で相談し木は残すことにし、きつめに剪定していただいた翌年から実が付き始めました。剪定した方が実は付きやすくなる様です。

実がなると分かり手入れをし始めて毎年少しずつ成る量が増え、今年は大豊作でした。ご近所の方々に配り、通りすがりのちょっと遠めのご近所さんにも持って行っていただき、もちろん家の琵琶の大ファンの事務方の三田さんにもどっさり差し上げ、旦那の実家（宮城県）にも送り、それでもまだ余るくらいの大豊作でした。取りきれない実は野鳥に食べてもらいました。

琵琶の木は医者いらずともいわれているそう。調べたところ、葉を煮出した汁を脱脂綿に浸して塗布するとアレルギー性湿疹にも聞くとあり、亡き愛猫がアレルギーになったときおなかに塗布してあげた事があります。その汁を飲むのも効果的とあり、好きで食べていたかつおのおやつに混ぜて食べてもらった事も。結局鶏肉のアレルギーだったのですが、かゆみが引いたのか琵琶の葉の処置をした後は血が出るほど噛むことはしなくなったので効果があったのではないかと思います。

琵琶の実事態は喉に良いそうです。そのおかげかちょうど収穫の時期、咳が出始めたような風邪をひきそうな、でしたが大事に至りませんでした。今年もまた来年に備え、少し涼しくなったら剪定をして来年の恵みに期待したいと思います。（小野）

今日の一品



大根おろしだれの2品

蓮根ほか野菜入り肉団子の大根おろしソース

- ① 豚挽肉と牛挽肉を半々、パン粉少々、卵、炒め玉葱、椎茸と茹でた人参もみじん切りにする。
- ② 蓮根は半分をすりおろし、半分は粗みじん切りにする。
- ③ すべてをよくこね、塩コショウし、固ければ牛乳を少し加える。30分ほど寝かせる。
- ④ 丸く成形して両面をよく焼く。
- ⑤ つゆの素、大根おろし、みりん、水を加えて煮込む。
- ⑥ 盛り付けて飾りに大根おろしと大葉細切りを乗せ、大根おろしソースもたっぷりかける。

夏野菜の炒め物の大根おろしだれ

- ① ナス、ピーマン、赤パプリカをそれぞれ食べやすい大きさに切り、炒める。
- ② つゆの素、大根おろし、砂糖、水少々を合わせ、炒めた野菜を戻して煮る。
- ③ 最後に片栗粉でとろみをつける。



レシピ提供 稲川

栄養士からのコメント 毎日本体並みの気温が続く今年の夏です。体調、特に胃腸の働きが衰え、汗をかくことによって体内のミネラル分も不足してきます。この「大根おろしだれ2品」は、デンプンを分解する酵素のアミラーゼの他、タンパク質分解酵素のプロテアーゼなどを含む、疲れた胃腸の働きを助ける暑い夏にぴったりの献立です。大根おろしをかける献立は、汗で失われたミネラル分の補充にもなります。



翔平君の物語

今年度の事業計画の一つ『タイムカード導入プロジェクト』が組成されました。現在の就業管理システム導入のお手伝いをした縁で再度お手伝いすることになりましたので、宜しくお願いします。

ところで、今世の中では対話型 AI ChatGPT なるものが話題になっています。この ChatGPT は人間とコミュニケーションし、ChatGPT に質問を行うとその文脈を理解し文章を作ってくれます。新し好きの自分としても早速興味を持ち、今回、国立市のある社会福祉法人で働く若者の物語りを作ってくださいと頼んでみました。

以下、ChatGPT が考えた物語です。

タイトル：「かけがえのない絆」
将平君は東北地方出身の 20 歳で、学業と仕事の両立を目指して東京にやってきました。彼は障がい系の社会福祉法人で働くことに決め、国立市にある法人に入職しました。

最初は研修からスタートし、利用者さんとの支援方法や職場の同僚や先輩との関わり方に悩みましたが、次第に成長し、仕事の楽しさを実感していくのでした。

将平君は入職当初、自分が担当する利用者さんとのコミュニケーションに苦勞しました。利用者さんらが必要とするサポートや支援方法を理解することは容易ではありませんでした。しかし、将平君は謙虚な姿勢で利用者さんと向き合い、日々のコミュニケーションを通じて信頼関係を築いていきました。

職場の同僚や先輩たちとの関係も最初は難しいものでした。将平君は若く未熟な存在であり、他のスタッフたちとのギャップを感じることもありました。しかし、彼は真摯に仕事に取り組む姿勢や、利用者さんへの思いやりを持って行動したことで、

徐々に職場の仲間たちからの信頼を得ることができました。

先輩たちは彼に様々なアドバイスや指導をしてくれるようになり、将平君は日々成長していく自分を感じることができました。

また、将平君は夜勤もこなすようになりました。最初の頃は緊張していた彼も、経験を積むごとに夜勤中の対応や利用者さんのサポートに自信を持つようになりました。夜勤は静かな時間帯であり、利用者さんとの一対一の時間を過ごすことができるため、将平君は彼らの個々のニーズに合わせた支援を提供することができました。利用者さんたちとの信頼関係が深まり、彼らの笑顔を見るのが将平君にとっての喜びとなりました。

将平君は仕事において苦勞や悩みもありましたが、同時に成長し、喜びを感じることもできました。彼は学業と仕事の両立を目指していたため、忙しい日々を送りながらも、自分の進歩を実感することができました。将平君は障がいを持つ人々の支援に貢献することができる社会的な仕事に就いたことで、自身の人生に意味と喜びを見出すことができました。

そして、将平君の青春は、仕事と人々との関わりの中で輝き続けました。彼は利用者さんや職場の仲間との交流を通じて、人間の温かさや尊さを学びました。将平君は自分の選んだ道に誇りを持ち、将来の成長への期待と希望を抱きながら、大人としての一歩を踏み出したのでした。 (続く)

以上が私が与えた前提もとに ChatGPT が作ったストーリーです。

但し、ChatGPT の回答や応答はモデルが学習したデータに基づいて生成されるため、必ずしも正確な情報を提供できるとは限りません。とのこと。

(タイムカード導入プロジェクトチーム

山田一道)

見てね!
ホームページ



★職員の入退職★

退職
中川 樹 2023. 8. 8

